

「21世紀の協同組合原則」制定20周年記念

一からわかる“協同組合”特別編 その1

「改革構想に循環型農業と生活福祉文化を」

東京農業大学名誉教授 白石 正彦

筆者は昨年4月から今年1月まで協同組合の価値・原則に関する「一からわかる”協同組合”」を明らかにしました。本号と次号では、このシリーズを踏まえ、協同組合の本質を理解しない改正農協法公布、弱肉強食の競争を加速するTPP大筋合意などの環境激変やJA組織・事業基盤の主体的条件の変容を踏まえて、未来志向で協同組合人としての誇り高いJA改革構想や中期計画を策定し、協同組合らしいJAの求心力、を高めるための3つのグランドデザインを提案したいと思います。

昨年11月に決定された第68回神奈川県農業協同組合大会議案は、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」を確立する改革の実践～持続可能な農業・地域・組織づくり～を主題としていますが、特に協同組合理念に基づく組織活動・総合事業の展開が鮮明にされている点が注目されます。

第1に、去年は国連の国際土壌年で「元気な暮らしは元気な土から!(Healthy Soils for a Healthy Life)」が世界的に取り組みされた点に注目する必要があります。すなわち、県民の元気で健康な暮らしづくりと生き物と共生する「神奈川JAグループの循環型農業の創造活動(JAの営農指導事業、営農資材購買事業と加工販売事業の循環型方式への転換)」のグランドデザインの明確化が求められます。これによって、県民の共感が高まり、県下の直売所販売や、学校給食、観光農業、体験型農業などへの地場産農畜産物の需要増大が予想されます。

第2に、県民の高齢化や世代交代における暮らし方の見直しや都市農業とのふれあいニーズや地元食文化への関心が高まりつつあり、「神奈川JAグループの生活福祉文化の創造活動」のグランドデザインの明確化が求められます。「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として躍動するためには、農・食・健康・福祉・医療を有機的に結びつけるJAの教育講座、女性大学、若い子育て世代や学生等も対象とした料理教室、青年部・女性部・子どもたち・親子が参加する食農教育活動、女性グループの加工・直売等の起業活動、健康管理活動、助け合い組織のデーサービス活動など共感しあう多彩なJA生活文化活動において、事業と活動を結びつけた斬新な取り組みが決め手となります。

第3に、協同組合としてのJAの社会的経済的な存在意義は、県民の支持、共感の広がりがあるバロメーターであり、そのことを神奈川JAグループの組合員、役職員のリーダーが自覚し、組合員の組織力(結集力)・JAの事業創造を推進するガバナンス力・経営革新力の3方面を結びつけた改革が求められています。その結果として、かながわ農業の担い手が育ち、農業者の農業所得向上と県民の豊かなくらしが相乗的に期待されます。このようなJAらしいグランドデザインの策定に本格的に取り組んで欲しいと思います。